



令和 7 年 7 月 吉日

報道機関 各位

なかかず や 企画展「没後 10 年 中一弥挿絵展」 ◆◆開催のお知らせ◆◆

104 歳で没するまで現役の挿絵画家として活躍し続けた中一弥（なか・かずや）は、池波正太郎の代表作である『鬼平犯科帳』『剣客商売』『仕掛人・藤枝梅安』など、多くの池波作品を美しい挿絵で彩りました。

没後 10 年を迎える今年、当館夏季企画展を通して 80 年を超える画業をたどり、生み出された数々の挿絵が持つ線の美しさ、表情の豊かさ、場面の一瞬を切り取ったかのような躍動感など、生き生きと描かれた池波作品の世界観を展示でご紹介します。

期 間	令和 7 年 7 月 26 日（土）～ 10 月 26 日（日）
時 間	午前 10 時～午後 6 時（最終入館は午後 5 時 30 分まで）
休館日	毎週水曜日（ただし 8 月 6 日（水）、8 月 13 日（水）は開館） ※振替休館：8 月 19 日（火）、9 月 16 日（火）、9 月 25 日（木）、10 月 14 日（火）
場 所	池波正太郎真田太平記館 1 階企画展示室
入館料	一般 400 円、高大学生 260 円、 小中学生 130 円（市内高校生以下は無料） ※団体・障害者手帳所持者割引あり
問合せ	池波正太郎真田太平記館（電話：28-7100）

上田市は「SDGs 未来都市」です。



上田市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

上田市 産業振興部商工課
池波正太郎真田太平記館

担当：小林・竹内
電話：0268-28-7100（直通）
FAX：0268-28-7101
E-mail：taiheikikan@city.ueda.nagano.jp

没後10年

中一弥挿絵展



「長谷川平蔵(『鬼平犯科帳』)」「週刊池波正太郎の世界① 表紙絵」画・中一弥 池波正太郎記念文庫所蔵

令和7年 《上田市誕生20周年記念》

7月26日(土)～10月26日(日)

開館時間 ● 午前10時から午後6時まで (入館は午後5時30分まで)
会場 ● 池波正太郎真田太平記館 1階企画展示室
休館日 ● 毎週水曜日 (ただし、8月6日(水)、8月13日(水)は開館)
※振替休館: 8月19日(火)、9月16日(火)、9月25日(木)、10月14日(火)
観覧料 ● 一般400円、高・大学生260円、小・中学生130円
※市内の高校生以下は無料 ※団体・障害者手帳所持者割引あり

※今展で使用する挿絵についてはすべて達坂剛氏より許諾を得ています



池波正太郎真田太平記館

〒386-0012 長野県上田市中央3-7-3
TEL: 0268-28-7100 FAX: 0268-28-7101
<https://www.city.ueda.nagano.jp/site/ikenami/>

中一弥挿絵展

没後10年

104歳で没するまで現役の挿絵画家として活躍し続けた中一弥^{なか かずや}は、作家・池波正太郎の代表作である『鬼平犯科帳』、『剣客商売』、『仕掛人・藤枝梅安』や、『忠臣蔵もの』の集大成である『おれの足音』、甲賀忍者・上田源五郎の波乱に満ちた生涯を描いた『忍びの旗』など、多くの池波作品を美しい挿絵で彩りました。

中一弥と池波正太郎とは、『近藤勇白書』の挿絵を手がけて以来、二十年来の親交が続き、中一弥は池波の描く江戸を《池波氏の肌から生まれた江戸》と語っています。

中一弥没後10年を迎える今年、当館夏季企画展を通して80年を超える画業をたどり、生み出された数々の挿絵が持つ線の美しさ、表情の豊かさ、場面の一瞬を切り取ったかのような躍動感をご堪能いただくとともに、生き生きと描かれた池波作品の世界観をお楽しみいただければ幸いです。



挿絵画家 中一弥氏

【上田市内にて】平成12年4月
撮影・所蔵：池波正太郎真田太平記館



「秋山小兵衛とおはる」
〔週刊池波正太郎の世界② 表紙絵〕
池波正太郎記念文庫所蔵



目黒川に架かる〔太鼓橋〕にて 無頼浪人を迎え討つ秋山大治郎
〔『剣客商売』挿絵〕
池波正太郎真田太平記館所蔵

盗賊・入間の又吉を見かけ
古道具屋に身を隠す長谷川平蔵
〔『鬼平犯科帳』挿絵〕
池波正太郎真田太平記館所蔵



夜張りの助七の腕の中で
息を引き取る小杉重六
〔『忍びの旗』挿絵〕
池波正太郎真田太平記館所蔵

※挿絵はすべて 画・中一弥

池波正太郎真田太平記館

〒386-0012 長野県上田市中央3-7-3
TEL: 0268-28-7100 FAX: 0268-28-7101
<https://www.city.ueda.nagano.jp/site/ikenami/>



挿絵画家 中一弥氏

なか かずや

池波正太郎の『鬼平犯科帳』ほか、多くの作品の挿絵を描いた挿絵画家・中一弥氏。幕末の浮世絵師・歌川国芳の流れをくむ小田富弥氏に師事し、清楚な画風で昭和初期からおおよそ八十年の間、挿絵一筋に数々の名作を描いてこられました。平成二十七年十月二十七日に、一〇四歳の天寿を全うし逝去されましたが、池波正太郎とは昭和四十一年の『近藤勇白書』以来、代表作のほとんどを手がけています。平成二十一年（九十八歳）から二十二年（九十九歳）にかけては、池波正太郎没後二十年企画『週刊池波正太郎の世界』（朝日新聞出版）の表紙画三十作を描かれています。晩年の作品では、ご子息の作家・逢坂剛氏の『重蔵始末』『平蔵の首』などがあります。

代表作Ⅱ池波正太郎『鬼平犯科帳』『剣客商売』『仕掛人・藤枝梅安』『おれの足音』『男振』『おとこの秘図』『雲霧仁左衛門』『忍びの旗』『近藤勇白書』『編笠十兵衛』ほか
直木三十五『本朝野士縁起』、村上元三『大久保彦左衛門』、海音寺潮五郎『武将列伝』、有吉佐和子『油屋おこん』、藤沢周平『密謀』、吉村昭『桜田門外ノ変』、逢坂剛『重蔵始末』、乙川優三郎『冬の標』など